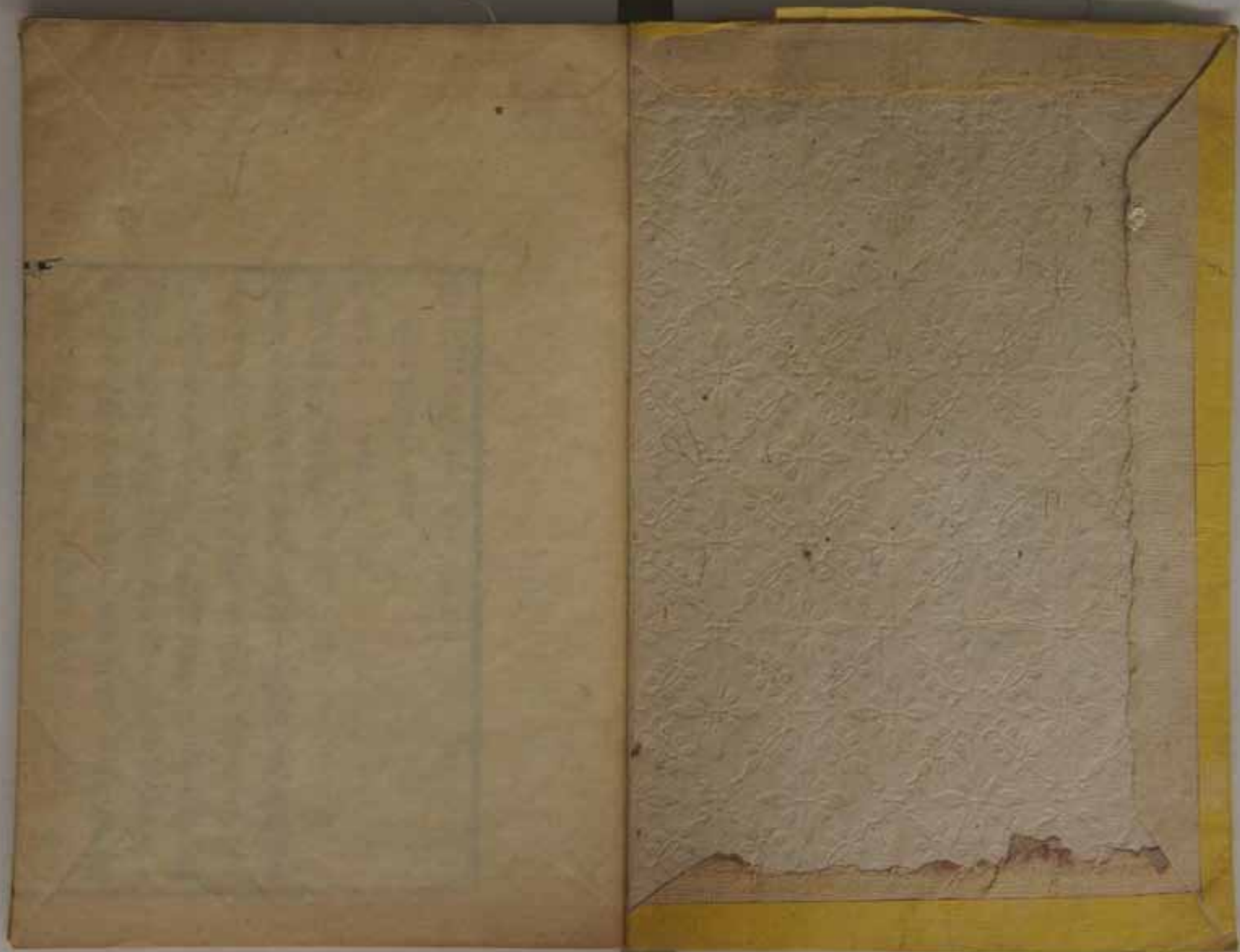


講孟劄記

三

山崎氏
和書
21





講孟劉記卷之二下

第十四場下 同日

藤文公上 首章

若藥不眠眩。厥疾不瘳。

此言實ニ是吾輩ノ良藥是ニ過ルナシ。但シ此藥眠眩ス

ル所以ニ至テハ真ニ志ヲ立ル者ニ非レハ知ル不能ハス。

請フ試ニ是ヲ言フ。今常人ノ通情ヲ察スルニ善ヲ好ミ惡

ヲ惡ムハ固ナレト。大抵十人並ノ人トナラント思フ。迨ニ

テ百人千人萬人ニ際出セント思フ者更ニ少シ。堯舜文王

ハ萬世ニ際出スル人ナリ。今邊ニ是ヲ師トセテトスルハ

瞑眩ノ藥ニ非ズヤ。滕ハ五十里ノ小國ニテシ。齊楚強大ノ國ニ間レリ。其自ラ存スル且難シトス。今乃チ是ヲ謂テ善國トナスヘシト云。亦瞑眩ノ藥ニ非ズヤ。然レモ常人ノ情トシテ。自ラ行フ下ヲ勤メス。好テ無當ノ大言ヲナシ。聖人トナルモ。善國トナスモ。茶漬ヲ食フ如ク。ニ言フ者多シ。亦烏シク此藥ノ瞑眩ヲ知ルヲ得ンヤ。吾輩自ラ反シテ是ヲ思フ時ハ。汗背報面自ラ容ル、所ナシ。是實ニ吾輩ノ良藥ナル哉。

第二章

三年ノ喪ハ三代ノ通用スル所ナルニ。滕ノ百官族人却テ

魯ノ先君モ吾先君モ之ヲ行フ者ナシト云ハ何ソヤ。曰ク是今ノ事情ヲ以テ推セハ得ヘシ。且本藩ノ事ヲ以テ言フニ。烈祖三靈ノ建置給フハ。實ニ千百世ノ重典ト云ヘシ。然レモ今直ニ之ヲ行ハ、俗吏古ニ通セサル者ハ必取シテ先例舊格ニ非ストセン。殊テ知ラス俗吏ノ先例舊格トスル所ハ多クハ後世沿習ノ流例ニシテ。真ノ重典ニ矣ルヲ亦少カラズ。烈祖以來僅ニ二三百年已ニ斯ル如シ。況ヤ周家天下ヲ治ルヲ七百餘年。天下方ニ争戰ノ場トナル時ニ當テ其謬長是ニ至ル。何ソ怪ムニ足ラン。故ニ守成ノ君ノ貴ヲ所ハ。務テ祖宗ノ遺訓ニ遵ヒ。斥家ノ舊

章ニ半と紛更變亂ノ漸ヲ杜クニ在リ學者モ亦茲ニ注意スヘシ。

此章孟子對アル所ノ主意ハ自盡ノ二字ニ在リ故ニ初對ニ口ヲ開キ即チ是ヲ言フ次對ニ不可以他求者也ト云ヒ在世子ト云世子是ヲ聞キ誠在我ト云ニ至テハ既ニ孟子ノ意ヲ領ス宜ナル哉能ク三年ノ喪ヲ成スヲ然レバ其論獨リ喪事ノミニ非ス萬事皆然ラサルコトナシ故ニ孔子曰為仁由己而由人乎誠ナル哉此言ヤ三年ノ喪行ハレサハ孔子張已ニ高守餘期三年不嘗ヲ疑フ嘗我三年ノ喪ノ久クイテ憂ズ又盡心下篇ニ公孫丑カ齊ノ宣王ノ知喪ヲ門アリアリ此類ヲ以テ章ニ合セ考フルニ三年ノ喪上ヨリ先順シテ下是ニ從フナリ三代以下晉ノ武成元德ノ華文

南宋ノ孝宗ノ如キ三年ノ喪ヲ行フノ君三數人ニ過キテ此時ニ當テ其臣下徒ニ其美ヲ稱頌スルコト能ハサルノナク又徒ナ俗論ヲ造作シテ是ヲ沮歎スルニ至ル礼法ノ綱是ニ至ル實ニ歎息ニ餘リアル也然レハ後世ノ君子宜シク外習俗ニ從ヒ内心制ヲ持スルコト也蓋世儒先往々是ヲ行フ贊仲スヘキ也吾カ如ル所ノ世入齊魯殊尤身ノ如キ母ヲ喪シテヨリ三年未ク嘗テ酒肉ヲ奉ヒス食深ク其操持ニ服ス蓋シ其師承府應田氏ノ教ヲ奉スルナリ先師山鹿素行先生甚名ク立俗ヲ教スル人其父ノ喪ヲ探ハ五十日ニシテ酒肉ヲ御スルコト酒肉ヲ御スルハ一儀ニ三度ノ王石テ皆已ムヲ持サ

第十五場 八月十二日

第三章

有王者起必來取法是為王者師也。

君子ノ政ヲ為スハ。我一國ノ為ノミニ非ス。天下後世ノ法トナランコトヲ要ス。若シ天下後世ノ法トナリ大ニ行ル、時ハ何ソ必シモ己ヨリ出自ラ為スニ誇ルコトヲ為シヤ。世水府ノ景山公ノ諸政ヲ更張スルヤ。他邦ヨリ來テ法ヲ取ルヲ期セラレシ故。他邦ヨリ來テ其政ヲ問ヒ其法ヲ觀ント欲スル者アレハ。必襟胸ヲ開キ情實ヲ吐テ是ニ示シ。又其論說スル所ヲ取テ國政ニ施用セラレシト聞ク實ニ志アリト云ヘシ。余途日諸藩ノ政ヲ為ス者ヲ觀ルニ。大抵目前ノ計ヲ為スノミ。未タ天下後世ノ為ニ志ヲ立ル者ヲ見ス。方今國步艱難ノ際ニ當レリ。士教民政ヨリ軍防兵備

ニ至ル迄。悉ク其至當至精ノ所ヲ究メ是ヲ行ハ。天下必來テ法ヲ取ラン。是天下ノ師トナルナリ。此事是人君天地ニ事ルノ誠心ヨリシテ成ル所ニシテ。區々功利ノ論ニ非ス。嗚呼是ニ非レハ。遂ニ其國ヲ新ニスルニ足ラサルナリ。死彼無出郷。鄉田同井。出入相交。守望相助。疾病相扶持。則百姓親睦。

此章大意。井地穀祿學校ノ三件ニ在リ。分テ前後二段トス。前段ハ直ニ文公ニ答フ。井田學校ノ大意ヲ言フ。世祿ハ滕國ヨリ之ヲ行フト云テ。穀祿ノ一件ヲ略ス。後段ハ畢戰ニ答フ。井地穀祿ノ詳ヲ言フ。學校ノ事ハ明言セズ。百姓親睦

ト云内ニ籠テ言ナリ。是全章ノ大意ナリ。而テ其尤熟味ス
ヘキハ此一節ニ在リ。蓋シ井地穀祿學校ノ事ハ。皆制度ニ
關係スルコトナハ。容易ニ議スヘキニ非ス。唯此一節ハ其行
フヘキノ實ヲ云。尤親切著明ナリ。今世ノ制。民間ニモ士林
ニモ伍組ノ法ハアルコトナレハ。此法ニ因テ此意ヲ行ヒタ
キコトナリ。橫渠先生學者ト議シ。田地ヲ買ヒ盡シテ數井ト
ナレ。經界ヲ正シ宅里ヲ分チ。欲法ヲ立テ儲蓄ヲ廣ノ學校
ヲ興シ禮俗ヲ成シ。蕃ヲ救ヒ患ヲ恤ヒ。本厚シ末ヲ抑ヘハ
亦以テ先王ノ遺法ヲ推シテ。當今ノ行フヘキヲ明ニスル
ニ足ラントノ志アリシ由。國外ノ註ニ見ユ。實ニ尤ナルコト

也。命ヲシテ橫渠ノ時ニ生レシノハ。必此事ヲ成ン者ヲト
思ヘ。凡幽明道遠ニシテ詮方ナシ。况ヤ今國圉ノ因トナリ。
志アリト雖モ違タヘキ。操ナシ徒ニ橫渠ノ說ヲ讀テ感涙
胸ヲ沾スノモ。但橫渠ノ說ハ田ヲ畫シ井トナスカ最モ用
意ノ所ト見エタリ。仁政ハ經界ヨリ始ルトアレハ。此事固
ヨリ要務ニハアルヘケレ。凡是ハ法制ニ係リタルコトニテ。
萬一人情ニ合シ土俗ニ宜シカラスコトアレハ。大ニ民間ヲ
擾亂スルニ至ル。故ニ夫ヨリハ此一節ニ云フ所ノ實ヲ主
トシテ行ヒタキコト也。

第十六場 八月十六日

第四章

有為神農之言者許行。

許行ハ漢家者流ニテ。上古神農ノ言ヲ稱述スル者ト云ヘリ。蓋レ周ノ衰ル。人君坐テカラ富貴ニ生長シ飽食煖衣シテ。民事ヲ以テ念トセサルト。世澆季ニシテ風俗偷薄ナルトヲ憤リ。其弊ヲ矯ント欲スルノ心切ナルニ因テ。與民並耕。市賈不飛ナド。過當ノ論ヲ發スルノミ。故ニ先許行カ心ヲ察シ。然ル後孟子ノ論ヲ讀ムヘシ。孟子ノ論ハ人君ノ職重キ。耕且為スヘキニ非ルヲ云フ。民ヲ教養シ風俗ヲ厚スルノ道其骨子ナリ。故ニ許行異端ト雖モ。其用意ハ亦憐

ムヘシ。若シ人君孟子ノ說ヲ行ヌ。能ハスシテ。一概ニ計行ヲ非トセハ大ニ非ナリ。

有大人之事。有小人之事。

大人ノ事ハ勞心治人食於人ナリ。小人ノ事ハ勞力食人治於人ナリ。九人ニ四等アリ。士農工商ト云。就中農工商ヲ國ノ三寶ト稱シ。各其職業アリテ。國ニ枚テ一モ欠クヘカラヌ。獨士ニ至テハ三若ノ如キ業アルヲナシ。而テ其職業ヲ思ハス。原禄ヲ費シ衣食居ノ奢ヲ窮メ。放然トシテ三者ニ驕ルハ。豈異多キヲニ非スヤ。故ニ士ト生レタル者ハ。文武ヲ修熟シ。治亂ノ御奉公ヲ心掛クヘキヲ固也。但吾輩已ニ

幽囚ノ身トナリ。此等ノ事ヲ語ルモ空談ニ近シ。而テ大ニ
 然テサル者アリ。何トナレハ。今日食ヲ所ノ食。衣ル所ノ衣
 用ル所ノ器。皆是國家ノ餘澤ニ非スヤ。而テ我レ農工商ノ
 業ヲナシテ。以テ國恩ニ報スヘキノ身ナラ子ハ。亦唯書ヲ
 讀ミ道ヲ講レ。忠孝ノ一端ナリト研究シ。他日ニ報スルコ
 ノ志ルヘカラス。士ハ三民ノ首ニシテ。君ハ又諸士ノ長ナ
 レハ。其自ラ養フ益ヲ厚ク。自ラ職トスル益ヲ重シ。食於人
 ノミニテ。勞心治人トナクシ。其何トカ云シ。是許行カ説
 ノ已ムヲ得サル所ナリ。當堯之時云。

堯ノ天下ヲ治ルノ次序。先舜ク舉テ政治ノ大體ヲ謀議ス

次ニ益禹ヲ用テ民ノ為ニ害ヲ除キ。稷ヲ用テ民ノ養ヒ。契
 ヲ民ヲ教フ。是其大體也。噫亦至レリ盡セリ。後ノ政ヲ為ス
 モノ大體ヲ立テスシテ。瑣事末節ニ汲々タル。何レ能ク成
 就スル所アランヤ。況ヤ人ヲ舉用スルコトヲ務トセス。勞シ
 テ功ナキ者往々皆然リ。又司徒ノ職ヲ論スル所。萬古人道
 是ニ盡ク。所謂五教ナリ。放黜ノ説。萬古教道是ニ盡ク。所謂
 在寛ナリ。玩味レテ一字ニテモ疎カニ讀ムヘカラス。

禹八年於外。三過其門而不入。

禹ノ水ヲ治ルヤ。塗山ニ娶リテヨリ。僅ニ四日ニシテ來ヌ
 出ツ。其子啓生レテ呱呱トシテ泣ク。聲外ニ聞ユレド。故テ

門ニ入り是ヲ領ミス。且山川跋涉ノ勞ニテ手足胼胝レ脛
ニ毛ナキニ至ル。其勞亦甚シト云ヘシ。昔聖人ノ天下ノ為
ニスル是ノ如シ。然ルニ後世人君生レテハ逸ン生レテハ
逸ンテカ、ル艱難ノ事ヲ夢ニモ知テス。實ニ勿體ナキコ
也。且本藩烈祖ノ如キ。沐雨櫛風ノ勞。甲冑生蝨ノ苦。大
小二百五十度若クハ三百度ニ及ブノ戰場ニ臨ミクマフ
ヲ實ニ夏禹八年ノ勞ニ過クト云ヘシ。今臣子タラン者此
恩ヲ思ハ、少ク自ラ省ル所アルヘシ。禹ノ勞ニ感シテ逸
ニ是ニ及フ。亦是情ノ已ムヘカラサルナリ。
吾聞用夏變夷者未聞變於夷者也。

論語集注卷之二十一

二十七

夷者辨君子ノ慎ム所ニシテ。孟子ノ論深ク春秋ノ意ヲ
得タリ。春秋ノ法。諸侯ニシテ夷狄ノ禮ヲ用レハ是ヲ夷狄
ニス。夷狄ニシテ中國ニ進ムハ是ヲ中國ニス。故ニ春秋ノ
夷狄ヲ疾ムハ純ク夷狄ナルヲ疾ムニ非ス。中國ヲ以テシ
テ流レテ夷狄ニ入ルヲ惡ムナリ。今許行陳良陳相辛智楚
人ナリ。相辛ハ楚人カ未詳。宋ヨリ勝ニユク下云ヘ氏楚クハ宋人ニ非ス。陳相ノ徒ナレハ亦楚人ナルヘシ。
楚ハ南蠻ナリ。而テ陳良ハ中國ニ進ム者ナリ。故ニ孟子是
ヲ許スニ蒙僂ヲ以テス。陳相ハ夷狄ニ入ル者ナリ。故ニ是
ヲ貴ルニ曾子ニ異ナルヲ以テス。許行ニ至テハ夷狄ヲ以
テ中國ヲ變セント欲スル者。最モ孟子ノ惡ム所也。故ニ南

論語集注卷之二十一

二十七

變狀古ノ人ト云。其是ヲナル甚嚴ナリ。是等ノ議論方今ニ
在テ大ニ關係アリ。深察スヘシ。歐墨ノ學ヲ修ノ夷狄ヲ尊
崇欲慕スル者ハ。小ハ即チ相率ナリ。大ハ即チ許行ナリ。最
モ辨拒スヘシ。然レモ夷ノ礮礮船艦醫藥ノ法天地ノ學皆
吾ニ技テ用アリ。宜ク採擇スヘシ。其 皇國ノ用ヲ成ス
ニ至テハ。亦夷狄ニシテ中國ニ進ムト云ヘシ。尚其術夷狄
ニ出其人夷狄ニ生スルヲ以テ是ヲ疾ムハ。孟子何ソ陳良
ヲ稱美スルヲ得ンヤ。古ノ賢君人ヲ用ル。夷狄ノ人ト云
モ。賢ナル者ハ敢テ捨テズ。秦ノ穆公ノ由余ヲ用上。漢ノ武
帝ノ金日磾ヲ用ルカ如キ。其例少カラス。何況ヤ其術ノヤ。

若其人果シテ夷狄ノ心ヲ狭シ。其術果シテ中國ニ益ナク
シテ損アレハ。速ニ是ヲ誅斬センノミ。速ニ是ヲ禁遏セシ
ノミ。故ニ夷狄ニシテ中國ニ進ムト。中國ニシテ夷狄ニ流
ル。トノ差別ヲ明ニスルヲ最急トス。余カ米判幹ニ往ン
ト欲スル。吾師象山余ニ謂フ。此性深ク忠義ノ志ヲ蓄ヘ國
ノ恩義ヲ知ル者ニ非レハ。必大害ヲ生スルニ至ル。是下誠
ニ其任ニ當レリト。吏ニ對スルニ方テ。數々是ヲ言フ。余固
ヨリ其任ニ當ルニ足テサレモ。東春秋孟子ニ技テ尤深シ
其亦是等ノ論ニ技テ感スル所アル乎。
孔子没三年之外。門人治任將歸。

師ノ為ニハ必使三年スルヲ是古ノ制ナリ。孔門諸子ノ如キハ三年ノ間孔子ノ家ニ留リテ夔ヲ勤メタルト見ユレハ其厚キヲ知ルヘシ實ニ後世ノ及ブ所ニ非ス。後世師道敗壞ス。唐ノ韓愈師說ヲ作りテ攻メテ能ハス。本邦太宰徳夫モ亦師說アリ。而テ迄時ニ至リ師道益々廢ス。余因テ其源ヲ洞察シ亦一說ヲ得タリ。大抵師ヲ取ルル易ク師ヲ擇ブニ審ナラス。故ニ師道輕シ。故ニ師道ヲ興サントナラハ妄ニ人ノ師トナルヘカラス。又妄ニ人ノ師トスヘカラス。必真ニ教ユヘキヲアリテ師トナリ。真ニ學ブヘキヲアリテ師トスヘシ。熊澤了介ノ中江藤樹ヲ師トスルカ如キハ

師弟共ニ各其道ヲ得ルト云ヘシ且道ハ古聖賢大抵志益セリ行盡セリ。今ノ學者多クハ其書ヲ觀テ曰真似ヲナスノミ。別ニ新見立職古人ニ駕出スルアルニ非ス。然レハ師弟共ニ諸共聖賢ノ門人ト云者ナリ。同門人ノ中ニテ妄ニ師ト云ヒ弟子ト云ハ。第一古聖賢ヘ對シテ憚多キヲナラズヤ佐藤直方ノ師道ヲ以テ居ラサル實ニ感スルニ餘アリ。此等ノ事ニ世道名教ニ關係スルヲ少カラス。詳ニ諸君ト議セント欲ス。

第五章

天之生物也。使之一本而幾子二本故也。

一本二本ト云。誠ニ切要ノ事ナリ。一本ハ天地ノ常理
 皇國ノ大法ニシテ漢土聖人ノ至教ナリ事々物々ニ就テ
 熟考スヘシ今條目ヲ左ニ列ス。一ニハ神器ト正統ト善ク
 見サレハ二本ニナルナリ。此事先單葉山潛鋒三宅觀瀾ノ
 論アリ余亦一説アリ別ニ著ス。此説大元二ニハ父子ト君
 臣ト善ク見サレハ二本ニナルナリ。三ニハ養父ト實父ト
 為人後者為之子故為子後服新喪三年而降其父母善ク見
 養明其本而重正統也。是實父養父ノ義也。
 サレハ二本ニナルナリ。四ニハ君恩ト教道ト善ク見サレ
 ハ二本ニナルナリ。迂儒ノ漢土ニ最負レ好僧ノ釋迦ニ特
 擔タル。皆是ナリ然レモ近世文明ノ化行ハレ聖賢ノ道ニ

志ス者。絶テ此弊ナシ。近頃浮屠風潮ナル者ノ護法小品ヲ
 讀ムニ其論甚ク善シ佛者ノ見果レテ皆張力如クナレハ。
 二本ノ患ナシト云ヘシ。九一本ノ誤テ二本トナル。此四
 ツノ外千百限リナシ。今特ニ其大ナル者ヲ舉ルノミ。且四
 ツノ者其説甚長シ。就中父子君臣ト並ビ立ツ時ハ大抵君
 臣ノ方ヲ重トス。事急ニ勢迫リ忠孝兩全シ難キニ臨ミ。誤
 ルトナカレ。唐ノ李璿其父懷光ノ將ニ反セントスルヲ密
 ニ德宗ニ言フ。此時ニ方懷光死スルニ及ンテ。璿先ツ二弟
 ヲカレテ自殺ス。此時ニ方父ニ復レ楚ノ令尹子南罪ヲ
 以テ誅セタル。其子素疾父ヲ棄テ離ニ事ルニ及ヒスレテ

自殺ス。君ハ歸トスヘカラス。死ヤ父ノ死罪ヲ以テスルヲ
 カラ。是皆善ク處スト云ヘシ。義朝保元ノ亂ニ父為義ト戦
 フ。是王事ナリ。此時君重臣トシテ後遂ニ父ヲ誅スルニ至テ
 ハ。惡逆更ニ論スルヲ待タス。此時ハ父トシテ北條氏直ノ臣
 松田英春ト云者アリ。其父憲秀歿方ヘ内通ス。英春號泣シ
 テ固ク諫ム。憲秀聽カス。英春竊カニ氏直ニ見ヘ。父ノ死ヲ
 宥ンシトツ誓テ後是ヲ告ク。氏直誓ニ負キ。憲秀ノ死ヲ宥
 セス。是英春モ善ク處スト云ヘシ。此時君重臣トシテ而テ英春其父ニ
 從テ死セス。又北條氏ノ為ニモ死セス。刺ヘ後來前田氏ニ
 事フ。此大罪宥スヘカラス。此類甚多シ。熟考スヘシ。養父實

父並ヒ立ツ時ハ。又養父ヲ重シトス。雖然。君父ト云ヒ養實
 父母ト云フ。輕重アリト云。此些ノ間ノミ。要之皆其為ニ再
 死ヲ致スヘキ所ナレハ。一旦ハ重キ方ノ為ニ。輕キ方ヲ棄
 テ顧ミサルトモアレハ。其事終ル時ハ。又前ノ罪過ヲ償フ
 ヘキ事固ナリ。義朝英春ノ如ク。父ヲ死セシメテ子獨リ生
 テ居ルコト。實ニ天地ニ容サルノ大罪ト云ヘシ。是皆事急
 勢迫リタル時ノ事ナリ。宜レク平生ニ講論シテ。時ニ臨ミ
 テ誤ルコトナカレ。猶此他云ヘキモノ多クテトモ別ニ論
 スヘシ。

蓋有上世宥不葬其親者云云。

此一節親葬ルハ人ノ至情ニ原クコトヲ論ス蓋シ情ノ至極ハ理モ亦至極セルモノナリ余常ニ謂ラク凡百ノ事皆情ノ至極ヲ行ヘハ仁用ユルニ勝ユヘカラス特ニ葬祭祈禳等ノ事皆至情ニ出ツルナリ夫人死スレハ魂ハ天ニ歸シ魄ハ地ニ歸ス葬ルト葬ラヌト祭ルト祭ラヌト死人ノ心ニ於テ曾テ關係アルコトナシ然ルニ人ノ情トシテ死タリトテ死セリトスルニ忍ヒス凶タリトテ亡タリトスルニ忍ヒス父ノ植置タル桐梓ヲ見テ甘ヘ恭敬ノ念起リ父ノ手澤ノ存スル書母ノ口澤ノ存スル杯椀ヲ見テ甘ヘ讀ムニ忍ヒス飲ムニ忍ヒサルハ皆人情ナリ況ヤ父母

ノ骸骨ヲ葬ラザル者アランヤ父母ノ墳墓宗廟ヲ祭ラサル者アランヤ故ニ葬祭ハ皆人情ナリ人情ハ愚ブ貴ブ益ト愚ニシテ益々至レルナリ若シ智ヲ貴ヒ理ヲ以テ言フ時ハ死人ノ骸骨ハ魂魄已ニ去ル原野ニ投スルモ可ナリ狐狸ニ飽シムルモ可ナリト云ニ至ル而ノ人情ア如何セン又或ハ葬ラサレハ精靈カ迷フト云ヒ祭ラ子ハ爵ヲ蒙ルノ禍ヒヲ受ルノト云ハ人情ニ似タレトモ畢竟己カ利害禍福ヨリ起ルトコロノ見ニシテ亦人情ノ至極ニ非ス祈禱ノモトニ至リテハ余別ニ論ス故ニ茲ニ贅ヒス上篇凡ノ五章此篇王政ヲ論スルコト最詳ナリ就中第

三章ハ王政ノ正面ナリ。第四章ハ許行ノ異説ヲ破ルナ
リ。而シテ王政ハ親ニ孝スルヲ以テ要トス。因テ第二章先
三年ノ喪ヲ論シ。起トシ。第五章墨者ノ異説ヲ破リ。結ト
ス。其首章ニ於テハ。學問政事皆聖人ヲ以テ師トスヘキ
コトヲ論シ。全篇ノ發端トス。是上篇五章ノ脉絡ナリ。

第十七場 八月二十一日

滕文公下 首章

志士不怠在溝壑。勇士不忿喪其元。

書ヲ讀ムノ要ハ是等ノ語ニ於テ反復熟思スヘシ。志士ト
ハ志遠アリテ節操ヲ守ル士ナリ。節操ヲ守ル士ハ困窮ス

ルハ固ヨリ覺悟ノ前ニテ。早晚モ飢餓シテ溝壑ヘ轉死ス
ルコトヲ念ステ怠レズ。勇士ハ戰場ニテ擊死スルハ固ヨ
リ望ム所ナレハ。早晚モ首ヲ取テル。トモ顧ミサルコト
ヲ念フテ怠レズ。苟モ士ト生レクラン者ハ。志士勇士トナ
ラズンハ。耻ヘキノ甚シキモノナリ。今我輩囚繫ニ陥リ。將
ニ身ヲ終ラントス。是レ宜シク志士ノ節操ヲ心掛クヘシ。
溝壑ヲサヘ怠レサレハ。生ヲ困困ニ終ルトテ。少シモ頓着
ハサルマシ。却テ本望トスル所ナリ。此志一タヒ立テ。人ニ
求ムルコトナク。世ニ顧フコトナク。昂然トシテ天地古今
ヲ一視スヘシ。豈愉快ナラスヤ。吾學茲ニ進マハ。事ニ臨シ

テ亦豈勇士ナルモノニ復レンヤ。抑虞人サヘモ志士勇士ニ比肩スルコトヲ得ルモノアリ。然ルニ士大夫トシテ却テ虞人ニ比スルコトヲ得サルハ。將何ノ面目カアル。狂己者未有能直人者也。

此語誠ニ切實ト云ヘシ。全章ノ議論此一轉ニ至リ皆是。脱卸スルナリ。世ノ政ヲ為スモノ。大抵己カ身心ニ原クルコトヲ知ラス。文武ヲ興シ節儉ヲ崇ミ廉耻ヲ勵スナト云類。号令條ノ如ク下レトモ。悉皆張釋之。所謂其文トナリ。毫モ其効ナキモノハ。人心ハ上ノ令ニ從ハスシテ。上ノ好ミニ從フモノナルヲ以テナリ。今在上ノ君子真ニヨク斯ニ心

甘キ寔安愉惰ノ欲ヲ絶チ。身ヲ戰場ニ置クノ思ヲナシ。以テ率ヒ先シスルトキハ。令セシテ下民自ラ從フヘシ。誰一人此義ヲ以テ明主ノ前ニ陳説スル者ナキヤ。悲カナ。

第三章

居天下之廣居。立天下之正位。行天下之大道。得志與民由之。不得志獨行其是。富貴不能淫。貧賤不能移。威武不能屈。此之謂大丈夫。

此章即反復熟味スヘシ。我輩平生ノ志ストコロ。此外他事大ニ今悉ク其義ヲ釋セヌ。

第三章

古之人未嘗不欲仕也。又惡不由其道。

此章ノ主意此二句ニ歸ス。而ノ更ニ是ヲ約スルトヤハ。道ニ由ルノ一言ニ止ルナリ。首章三章ト互ニ相發明ス。首章ノ主意ハ枉道ノ非ヲ論スルナリ。第二章八頌ノ一字ヲ以テ衍儀カ大丈夫ニ非サルコトヲ明ス。然レハ三章トモニ道ニヨリテ少シクモ枉クス。少シクモ順ハヌコトヲ云ナリ。其所謂道ハ即チ第二章ノ廣居正位大道ナリ。即チ仁義禮ナリ。聖賢ノ十言萬語豈復他アクンヤ。之ヲ舒レハ四海ニワタリ。之ヲ卷ケハ方寸ニ藏ス。學者マサニ此處ニ向テ突緊ノ工夫ヲ致スヘレ。

第四章 非食志也。食功也。

此章ノ論此二句ニ下リ。而シテ食功ノ三字ニ歸ス。其論明白。復辨ヲ持タス。唯君を臣を養ヒ。民人上ニ奉スル。既ニ皆功ニ食マヌル為ナレハ。是ニ酬ユルモノ將タ如何スヘキ。日々三度ノ箸ヲ把ル毎ニ。此食ノ徒食スヘカラサルヲ思ヒ。又衣服ニ付テモ居處ニ付テモ器用ニ付テモ。皆此モノ徒ニ居ルヘカラス。徒ニ用ユヘカラサルヲ思ハ。豈放僻邪侈ノ念ヲ生センヤ。余江戸獄中ニアリテ。法華僧日命ナルヒトト同居ス。僧常ニ云フ。人マサニ四恩ヲ知ルヘシ。一ニ

ハ君恩ナリ。二ニハ親恩ナリ。三ニハ師恩ナリ。四ニハ一切
衆生ノ恩ナリ。三思マテハ儒家ニモ談スルトコロナレト
モ。四思ニ至リテハ佛家ニアラサレハ知ルコト能ハス。五
目王西施主ト云ヘリ。日命云フ處ハ其ナリ。三凡人
此世ニ居ル。雞ニ因テ時ヲシリ。犬ニヨリ盜ヲ知リ。牛ヲ以
テ耕シ。馬ヲ以テ載スルヨリ。米穀ノ人ヲ養ヒ。藥石ノ人ヲ
治スルニ至ルマテ。禽獸草木一切衆生。皆人ニ恩ナキハナ
シ。是知ラサルヘカラスト。其説甚ク理アリ。功ニ食スルノ
論ニヨツテ思起セリ。但シ君父師ノ外更ニ衆生ノ恩ト云
ハ。亦是異端ノ見ナリ。三思ヲ離レテ豈更ニ衆生ノ恩アラ

ンヤ。三思ノ外更ニ衆生ノ恩アリト云ハ。即チ所謂二本ノ
論ナリ。夫ハ鬼モ角モ。功ナクシテ食シ。恩ヲ受テ忘レケラ
ン者ハ。天地間ニ容ルヘカラスト。

第五章

湯ノ民ヲ吊シ。武王ノ殘ヲ取ル。是所謂王者ノ兵ナリ。皆後
世ノ師法トスヘキ所ナリ。而シテ湯ノ葛ニ於ル。若其道ヲ盡
スト云ヘレ。方今有志ノ諸侯。若レ心ヲコ、ニ用ユル者ア
ラハ。實ニ神州ノ大幸ト云ヘン。先自國ノ政教ヲ修メ。稍隣
國他國ノ非敬ヲ誨諭。革正セシメ。米粟給セサレハ。是ヲ給
セシメ。甲兵備テサレハ。是ヲ備ヘシメ。相共ニ神明ヲ守護

セシコトヲ約セハ國脉不日ニ強盛ナルヘシ。世湯武ノ事
称道スル者。必ス放弔ト云フ。噫湯武ヲシテ真ニ聖人ナラ
レハ。放弔ハ豈其好ハ所ナランヤ。殊ニ止ムヲ得サルニ
出ルノミ。其本心ハ葛伯ノ如キ者ト雖モ善政ニ進マシメ
ント欲スルナリ。故ニ牛羊ヲ遺リ。衆ヲ遣シテ耕リシムル。
皆是至誠惻怛ノ心ヨリ出ルコトナリ。若是ヲ以テ恩ヲ賣
リ。成ヲ養フノ術數トセハ。大ニ非ナリ。

葛伯放而不祀。湯使人問之。

葛伯祀ヲ廢シテ。湯コレヲ問シムルハ何ソヤ。祀ハ忠孝ノ
道ナリ。祀ヲ廢スレハ忠孝並ニ廢レテ。人道滅スルニ近シ

湯豈コレヲ問甘ランヤ。九祀ノ義。聖賢ノ論具ニ經史ニ見
ユ。今必シモ贅セヌ。但前章ニ出ル諸侯耕助。以供粢盛。夫人
蠶繅。以爲衣服ト云ニテモ。其大意ヲ知ルヘシ。先ツ諸侯モ
手ツカラ籍田ヲ耕シ。庶人助ケテ畝ヲ終レハ。供スル處ノ
粢盛ハ人君ノ孝心ト庶民ノ忠心上合セテ成ル所ニシテ
殊ニ祭ノ衣服ハ。君夫人ノ親シク世婦ヲ率ヒテ織成スル
モノハ。是亦忠孝ノ義ヲ兼ルモノナリ。君臣一致シ忠孝合
体シテ行フトコロノ祭祀ヲ終スルコト。豈人道ノ滅スル
ニ非スヤ。國ヲ觀ルモノ宜シク是等ノトコロニ心ヲ付ヘ
キナリ。

第六章

薛居州獨如宋王何。

此章義極明白。比喻極的切而シテ到底又此一句ニ歸ス。然トモ是獨リ人君ノ知ルヘキノモニ非ス。卿大夫士ニ至ルマテ。爭臣爭友少ナクテハ。善ヲナスコト甚ク難シ更ニ一轉シテ思フニ。心ノ存スルトコロ。身ノ行フトコロ。接スル所ノ事。觀フ所ノ藝。皆善ニ非サルコトナクハ。何ヲモツテ不善ノ人タランヤ。故ニ曰ク。小人間居シテ不善ヲナスト。不善ノ萌ハ必ス無事ニヨルモノナレハ。是ヲ思テ身ヲ華悌文武ノ内ニ漸漬シテ他念ヲ生スルニイトマナ

夕々ハ。是亦在哉。置タノ意オカ。

第十八場

第七章

此章始ニ泄柳申詳ヲ舉テ。臣タテサレハ見サルヲ證シ。且其甚シキヲ譏ル。終ニ曾子子路ヲ舉テ。君子ノ養フトコロヲ著シ。中孔子ヲ舉テ其標準トス。余此章ヲ讀テ當今魏ノ文公魯ノ繆公ノ如キ者ヲキク歎シ。又泄柳申詳如キモノヲキク嘆ス。而レテ猶學フヘキモノハ曾子子路ノ養フトコロナリ。學者三復シテ。夏畦ノ病ヲ林ノ癩キノ色ヲ醒ス

第八章

成周井田ノ法付テノ税破壊既ニ久シ。春秋魯ノ宣公ノ時ヨリ既ニ私田ヲ征スルコト見ユレハ。戰國ノ時ニ至リ。其重税等欲推テ知ルヘシ。今一旦付一人税ヲ用ヒ。刺ハ關市ノ征クモ去ラントスルコト。豈容易ナランヤ。凡ソ國用限リテ。非常ノ節儉ヲ行フニ非ンハ。何ヲ以テ數百年來性來其久征稅少輕スルコトヲ得シヤ。戴盈之來年ヲ待テ是ヲ止メント云ハ。勇斷ニ非スンハ安ノ能ク如是ナランヤ。然ルニ孟子乃チ鄰ノ難ヲ撥ムモノニ比スルハ。豈甚レカラスヤ。余思フニ井田ノ廢文シ。大勇斷ニテ非常ノ節儉

ヲ用ユルニ非サレハ成テサルコトナルヲ。盈之容易ニコレト云フ。是虚言ノモニシテ實心アルニ非ス。故ニ孟子深ク是ヲ拒絕スルナリ。試ニ盡心上篇齊宣王殺ク短セント欲スルノ章ノ意ヲモソテ知ルヘシ。宣王殺ク短セント欲ス。公孫又問フ。善ノ喪ヲスルハ備已ムニ愈ラシカ。孟子曰。是ハ尾ノ臂ク失ラス者ヲランニ。姑ラタ徐々セヨト云カ。如之。夫ニテハ人ノ弟タルモノヲ殺ユル所以ニ非ス。夫ヨリハ孝悌ヲ教ユルノ外アルマシ。然レハ喪ヲ短スルノ非ヲシテハ。必ス三年ノ喪ヲ勸ムヘシ。甚ニテ止ムヘキノ理ナシト云リ。此章如知非其義。斯迷已矣。何持來年ノ意。即チ

此義ナリ。又公孫夏ノ問ニ。王子其母死スルモノケリ。嫡母
ニ憚リテリテ喪ヲ終ルコト能ハサルユヘ。其傳是カタク
ニ數月ノ喪ヲ請フ。此ノ如キモノハ如何ト。孟子曰。是ハ喪
ヲ終ラシト欲シテ。得ヘカラサルモノナリ。一日ナリトモ
喪ヲ勤ルトキハ已ムニ愈レリ。前ノ兄ノ臂ヲ戾ラスノ喻
ハ。是ヲ禁スルコトナクシテ。為ナルモノヲ云トイヘリ。然
レハ。盈之ヲコトニ能ク長ク愛スルノ誠心アリテ。節食ヲ
行止國用ヲ足レ。少シナリトモ。征稅ヲ輕クシ。實惠氏ニト
テハ。假令速ニ什一去關市之稅ノ昔ニ又フコト能ハスト
モ。孟子必ス云シ。一升ノ輕フスト云トモ。已ムニ愈レリト。

故ニ孟子ノ蓋之ヲ責ムルハ。來年ヲ待ツノ語ヲ責ルニ非
ス。虛言アリテ實心ナキヲ責ルナリ。
第九章 齊宣王問曰。昔者齊宣公將以天下之
作於其心。害於其事。作於其事。害於其政。聖人復起。不易吾言
矣。
此語浩然ノ氣ノ章ノ上ニ出ゾ。亦聖人復起。必從
吾矣ト云テ自贊スレ。所ヘレ。孟子母生得意ノ言ナルコト
又。因テ詳ニ其義ヲ論ス。作於其心トハ。初一念ノコトナリ。
人ハ初一念力大切ナルモノニテ。トコマテモ付廻リテ。政
事ニ至リテハ。其害最モ著ルナリ。今學問ヲナスモノ、

初一念を種々アリ。就中誠心道ヲ求ムルハ上ナリ。名利ノ
満ニスルハ下ナリ。故初一念名利為ニ初マル學問ハ進
メハス、ムホト其弊著ハレ。博學宏詞ヲモテ是ヲ粉飾
ス。トイヘ。是遂ニ是ヲ掩フコト能ハス。大事ニ臨ミ進退據
ロテ失ヒ節義ヲ欠キ勢利ニ屈シ。醜態云フニ忍ビサルニ
至ル。彼我ヲ勤ムルノ初一念モ種々アリ。就中道ヲ行ヒ國
ニ報スルタノスルハ上ナリ。空身出世ノ為ニスルハ下ナ
リ。是亦志違官違スルニ從ヒ。益々著ハル、事ナリ。其他何
事ニヨラス。初一念力大切ナリ。王安石ノ新政モ。其執拗ノ
念ハ釣魚ノ宴ニ餌ヲ食フヨリ前ニアルコトナリ。其念常

ニ胸中ニ蟠リ。小事ニ遇ヘハ小發ト。大事ニ遇ヘハ大發ス。
凡ソ書ヲ讀ミ官ニ當ルモス。自ラ我初一念如何ト省察シ
テ。其非ヌ改メ善ニ勉ムルニ。此處百萬ノ大敵ヲ平クルノ
勇ニ非ヌ。心ハ痛々懲スコト能ハス。沛々ヲ塞カサレハ。遂
ニ江海トナル。兩葉ヲ斷シレバ。斧柯ヲ用ントストハ。カ、
ルコトヲ云ナクハ。天ヤ水ト云ハス。此處ハ。孟子ノ五ノ
戒亦欲正人心息邪說。距詖行。放淫辭。以兼三聖者。
全章ノ主意此一節ニアリ。此一節又正人心ノ三字ニ歸ス。
是乃孟子終身自任不窮。野哉ニアリ。抑此高ノ抑洪水。
周公ヲ兼。夷狄驅。任。歌。孔子ノ成春秋。タ。以テ。孟子自ラ比ス。

而シテ朱子注シテ云ク蓋邦說橫流壞人心術甚於洪水位
獸之災降於夷狄篡弒之禍故孟子深懼而力救之ト此言深
味クヘシ且當今ノコトヲモツテ是ヲ證センニ群夷競來
此國家ノ大事トハイヘトモ深憂トスルニ足ラス深憂ト
スヘキハ人心ノ正シカラサルナリ苟モ人心タニ正シケ
レハ存死以テ國ヲ守ル其間勝敗利鈍アリトイヘトモ未
タ違ニ國家ヲ失フニ至ラス苟モ人心先不正カラハニ戰
ヲ持タスニテ國ヲ棄テ夷ニ從フニ至ルベシ然レハ今日
最モ憂フヘキ者ハ人心ノ不正ナルニ非ズヤ近年來外夷
ニ對シ國體ヲ失スルコト少カラヌ其甚ニ至ル者恐レナ

カラ幕府諸藩ノ將士皆其心不正ニシテ國ノ為ニ忠死ス
ルコト能ハサルニ因ル然レハ孟子今日ニ生ルトモ亦
正人心ノ三字ノ外一向モアルコトナシ此類ヲ以テ推ス
ニ洪水猛獸ノ人民ヲ害スル甚シトイヘトモ洪水ハ抑ユ
ヘシ猛獸ハ驅ルヘシ夷狄篡弒マコトニ憎スヘシトイヘ
トモ夷狄ハ兼ヌヘシ篡弒ハ誅スヘシ人心苟モ正シキハ
四ツノモノ少シモ憂ルニ足ラス苟モ人心不正ナルトキ
ハ何ヲモフテ洪水ヲ抑ヘンヤ何ヲ以テ猛獸ヲ驅ランヤ
何ヲ以テ夷狄ヲ兼子ンヤ何ヲ以テ篡弒ヲ誅センヤ天地
晦暝人道滅絶スマコトニ寒心ヲナスヘキコトナリ

第十章

孟子ノ陳仲子ヲ譏ルハ。避兄離母人倫ノ至重ヲ廢シ。匹夫ノ小廉ヲ行フク惡ムニアリ。國外范氏ノ説甚ク明ナリ。但仲子ヲ巨擘トスル者ハ。此時齊國ノ士皆利祿ニ趨リ富貴ノ貪リ。離婁下篇ニ云フトコロノ一妻一妾ニシテ室ニ居リ。東郭墻間ノ祭者ニ乞ヒ饜足ヲナス如キ。卑劣至極ノ人物ノモ多キヲ以テ仲子ヲ奇トシ巨擘ト云テ是ヲ稱スルナルヘシ。世澆季ニシテ士清操ナキノ時ニ當リテハ。仲子カ如キモノ實ニ末俗ヲ砥礪スルニ裨益アリト云フヘシ。嗚呼亦巨擘ナルカナ。

下篇孟子時ニ遇スシテ。自ラ道ヲ屈セサルコトヲ明ス。首章第二章第三章第七章皆孟子時ノ諸侯ニ屈セサルノ義ヲ詳ニス。第四章ハ孟子諸侯ノ食ヲ辭セサルコトノ云。第五章第六章第八章皆政ヲ論ス。孟子諸侯ヲ見ルコトアラハ。其陳説スル所斯ノ如キノミ。此三章ヲ舉テ其端緒ヲ發スルナリ。第九章大議論。孟子平生自ラ辯ノ好ムニ非サルコトヲ辯ス。是孟子遂ニ時ニ遇ス政事ニ施スコト能ハスシテ。退テ空言ヲ以テ人心ヲ正フスルノ志ヲ見ル。第十章仲子カ蚘ニシテ廉ニ非サルヲ論シ。時ニ第四章食ヲ辭セサルノ意ト照應ス。讀者ヨロシク

山本九
印

諸侯ニ屈セサルノ諸章ト比較シ孟子ノ屈セサル仲子ノ廉ト同年ノ論ニ非サルヨトテ了解スヘシ

講孟記卷之二下

明治二己巳歲晚秋刻成

長門

松下邨塾藏版



弘通

駿州府中	越後柏尋	同	加州金沢	同	勢州奈坂	同	尾州名古屋	長列	防列富
須原屋源助	萬屋嘉平	近岡屋多兵衛	中村屋喜兵衛	藤原屋甚虎衛門	木屋嘉助	萬屋東平	永樂屋東四郎	山城屋彦八	起晋堂茂兵衛

書肆

京都四條通御旅町	同通安土町	同通唐物町	同通北又室町	同通心齋橋壹丁目	大阪心齋橋北谷郎町	同西國橋山町三丁目	同通二丁目	東京日本橋通二丁目
田中屋治兵衛版	河内屋和助	敷賀屋彦七	河内屋吉兵衛	伊丹屋善兵衛	敦賀屋九兵衛	河内屋喜兵衛	和泉屋金右衛門	須原屋茂兵衛

